

学 校 教 育 目 標	じりつ(自立・自律)・きょうせい(共生・共成)自ら考え、行動し、共に学び・共に生きる岩小っ子の育成
目 指 す 学 校 像	○岩小にかかわるすべての人が笑顔になる学校(Well-being) ○『確かな学力』を身につけ、『自ら考え行動する力』をはぐくむ学校(イヴ ェンソー) ○みんなの学校(児童・教職員・保護者・地域) (SSN、コミュニティ・スクール)
重 点 目 標	(1)カリキュラム・マネジメントの充実と共に教育の質の向上を図り、教育 DX を有効活用し『確かな学力』と『学びに向かう力』をはぐくむ。 (2)よりよく生きることの基盤を形成するため、学校教育全体で特別活動の充実を図り、全教育活動で展開する。 (3)安全・安心な教育活動の推進と環境整備を推進する。ハード面にとどまらずソフト面(学級経営・学年経営等)の充実を図る。 (4)SSN、コミュニティ・スクールを核とし、地域とともにある開かれた学校づくりを目指す。 (5)教師力の向上と機動力がありチームとして教育活動に取り組む教職員組織をつくる。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

		学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標				年 度 評 価		実 施 日 令 和 9 年 2 月 日	
		番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 な 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
学びの質の向上に 関する取組	1		＜現状＞ ○学力学習状況調査では、学年による違いはあるが、平均と比べると良好とはいえない。 ○学習状況調査における「国語・算数の勉強は好きだ」の項目において、肯定的な回答をした児童は、全国平均同程度、市平均は下回っている ○授業中に学習にしっかり取り組む児童は多い。 ＜課題＞ ○確かな学力をはぐくむための、基礎基本を確実に定着することと、学びに向かう力を育てる。 ○端末を効果的に活用した授業、主体的対話的で深い学びの授業などよりよき学びの授業法を増やす。	・「確かな学力」をはぐくむための、学習の基礎基本の確実な定着	・カリキュラム・マネジメントの充実を図ることで、教育の質を向上させると共に、教科横断的な学びを追求する。 ・「読む」「書く」「計算(数的感覚)」を確実に身に付ける。(すらすら音読、文章を書く、学年配当漢字(読み、書き)、四則計算等) ・基礎基本の定着を図るため、少人数指導、個に応じた指導、ドリル学習、小テストなどを積極的に活用する。	・学校評価教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。 ・学びの指標、学習状況調査等において、学習への意欲、学習への取組関連項目において肯定的な回答8割を目指す。 ・学校評価教員アンケートにおいて、「主体的に学ぶ姿がみられるようになってきた」と回答する教員の割合が 95%以上となったか。 ・調査結果の分析や学力向上支援研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。 ・一人一台端末を効果的に活用した学びが行われたか。(学校評価 90%) ・「学びに向かう力」について			
				・教育 DX を積極的に取り入れ「学びに向かう力」をはぐくむ	・一人一台端末を効果的に活用し「学びの自律化」「個別最適な学習」「協働的な学習」を実現する。 ・アプリ等を効果的に活用した指導を積極的に行う。持ち帰りも含めデジタル学習基盤を活用した教育活動を推進する。				
心の子 のサポ ー トに 関 す る 取 組	2		＜現状＞ ○学習状況調査における「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的回答児童が8割を切る学年もある。登校をしぶる児童もいる。 ＜課題＞ ○多様性を認め、自分も周りの人も大切にする資質を身に付けさせるための手立てを、学校組織として構築していく。 ○すべての児童、そして保護者、地域の方々が学校は心理的安全性があり居心地がよく、よりよき学校をつくっていこうという当事者意識を構築していく必要がある。	・よりよく生きることの基盤を形成するために特別活動の充実を図り、全教育活動で展開する。	・特別活動を通して集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮する資質の能力をはぐくむ。 ・学校教育全体で道徳性を養う道徳教育の充実に努める。 ・児童一人ひとりの個性の発見とよさや可能性を伸ばす積極的な生徒指導を行う。 ・安心して登校できる学年・学級経営の推進。「失敗しても OK」の雰囲気の醸成 ・徹底した児童理解と児童観察に基づく個に応じた教育を進める。 ・Sola るーむ等の活用による心理的安全性を実現する居場所を確保する。	・学校評価教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。 ・学校評価児童・保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。 ・学校評価アンケートの「学校は安心できる場所」の関連項目が肯定的回答割合 85%以上となったか。			
				・安心できる場・居場所と生活の充実(学習スペースの確保) ・何事にも組織としての対応					
学校づくりに 関する取組	3		＜現状＞ ○合同学校運営協議会では、目指す児童像についての熟議や考察を重ね、地域全体で児童生徒をはぐくんでいくことを共有した。 ＜課題＞ ○共にある学校をつくるため、学校運営協議会の認知度をあげる。自校開催を目指す。 ○日頃から教育活動を見ていただく開かれた学校づくりをすすめる。 ○学校の教育方針を保護者、地域に伝えるたり対話したりする等の場を設け、学校に係るすべての方々が当事者意識をもてるようにする。	・スクールサポートネットワーク(SSN)、コミュニティ・スクールを核とし、地域とともにある開かれた学校づくり	・学校教育活動公開、授業公開、学習ボランティア等の構築などをすすめる ・学校・家庭・PTA・地域が連携した SSN の充実を図る。(防犯ボランティア、子ども 110 番の家など学校安全ネットワークを含む) ・岩小 Cafe 等を活用した教育活動の情報提供	・学校運営協議会の保護者認知度が 70%以上となったか。 ・学校運営協議会で熟議された結果に基づいた地域学校協働活動の共有及び活動内容の改善について議論するために、学校運営協議会の年3回開催に加え、SSN 協議会を年2回開催する。 ・学校評価アンケート(保護者等)で保護者地域等とともに教育をすすめるという内容項目、肯定的回答が 85%以上となったか。			
				・学校教育への保護者や地域の方の参画 ・学校評価の充実	・PTA と積極的な連携をすすめる。 ・家庭、地域等との「きょういく」の推進。 ・学校評価の実施による不断のよりよき学校づくりに努める。				
教育環境の 整備に 関する取組	4		＜現状＞ ○校舎の老朽化が進んでいる。 ○以前より掲示が変わっていないものが多い ○教育活動が安心して行えるような予算執行を連携して行っている。 (課題) ○リフレッシュ・改築工事を鑑みた教育活動を今後考えていく必要がある。(計画的な備品整理等) ○児童の興味関心をアップデートしていく校舎内の掲示の更新。	・整ったきれいな学校 ※ハード面にとどまらずソフト面の充実を図る	・学びやすい教育環境の提供を図る。 ・整った教育環境づくりに努める。【清掃・掲示・栽培緑化等】 ・教職員が安心して教育活動を行えるよう、教職員との対話に努めニーズを把握した予算執行を行う。	・学校改善アンケート(教員・保護者)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が 90%以上となったか。 ・校舎内の掲示が定期的に更新され、児童の学びの意欲を高めたり、情報の収集になったりする掲示となったか。 ・適切な予算執行が行われたか。 ・毎月の施設設備の安全点検が確実に行われたか。また、結果に応じた修繕対応ができたか。			
				・常に安全面を考慮した施設設備の確認	・施設設備の計画的な整備、修繕と安全点検の徹底に努める。特別教室の整理整頓 校舎改築、リフレッシュ工事を見据えながら改善要望をする。				
教職員の キャリア 形成に 関する取組	5		＜現状＞ ○教職員の年齢構成はバランスよいが、やや経験の浅い教員が多い。経験値が多岐にわたる。 ○教科担任制実施により、担当教科についてより深い教材研究を行うことができている。 ＜課題＞ ○令和の日本型学校教育の理解を深め、ICT 活用の授業や「個別最適な学び」「協働的な学び」を中心にした授業づくりを勧めていく。 ○誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。	・教師力の向上と機動力がありチームとして教育活動に取り組む教職員組織の構築	・教員等資質向上指標による資質の向上を目指し、教員として自ら学ぶ姿勢をもち不断の研修に努める。 ・教師間の学び合いと切磋琢磨による教師力の向上を図る⇒相互授業参観の実施 ・チームとしての全教育活動の展開【貢献・きょうどう(協働、共働、共働、共同、協同)を基盤とした組織】	・全ての教員が「学びの指標」の実現を目指し、日常的に ICT を活用する状況になったか。 ・全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善・研修に取り組み、結果として 90%以上の教員が目標達成を実感することができたか。			
				・働きやすい、働きがいのある職場構築 ・校務における生成 AI の活用について研鑽を図る	・業務改善を意識した仕事への取組 ⇒スクラップ&ビルド 会議の効率化(時間、内容、進め方等) 仕事のシェア チーム(組織)としての対応 等 ・生成 AI を活用した、業務改善に取り組む。	・タイムマネジメントを意識し業務にあたり、やりがいや満足感をもちながらも時間外在校時間の縮減に努めたか。 ・職場の風通しのよさを感じている職員 90%。時間外在校時間平均 25 時間/月以下。			